

深浦田覚寺古典籍保存調査プロジェクト所感

深浦町教育委員会教育課 伊 東 信

平成二十九年の六月に開講した深浦田覚寺古典籍保存調査プロジェクトは、弘前大学人文社会科学部渡辺麻里子教授の主導により、田覚寺に保存されてきた膨大な量の古典籍を、町民が、高校生が、弘前大学生が参加し、紙数数え、採寸、写真撮影、などの地道な作業を分担して行ってきました。聖教調査は一般的には専門家らによる調査チームにより行われることがほとんどのようですが、地域の宝は地域で守るという理念のもと、町民が積極的に参加するプロジェクトチームにより調査を行い、限られた時間での作業ですが、これまで約七百点もの聖教類の調査カード、リストの作成を終えるという成果を上げております。

江戸時代後期から明治にかけて、田覚寺歴代住持が遠くは京都・奈良の寺院を訪れ収集・書写した聖教は百数十年の時を経て、現代われわれの手により、徐々にその歴史の紐が解かれています。調査に携わってみると、改めて歴代住持の偉業に感服し、地方にあっても知識を得たいという強い意志のようなものが感じられました。先人の学ぶことに対する姿勢は、世界中のありとあらゆる情報が入手できる現代社会においても、見習うべきものだと思います。書写した文字から伝わってくるその強

いメッセージは調査に参加した人でなければ、得ることのできない特別なものだと思います。

最後に、今回のフォーラムで特別講演を賜った名古屋大学高等研究院阿部泰郎先生のお話にあつたように、所有者、地域、研究機関が皆、このプロジェクトの当事者として、連携・協働し、成果を共有する「知の共同体」となり得るよう、より一層協力していきたいと考えています。

また、深浦町でこのような調査を行っていることを地域の人に知っていただき、多くの方がプロジェクトに参加していただけるよう発展させていきたいと思っております。